



2022年 9月21日

日本鉄道労働組合連合会

連合 2022 平和行動 in 根室

“北方領土”返還実現にむけ、元島民の想いを繋いでいく

連合は、9月10～11日にかけ、2019年以來3年ぶりとなる「2022 平和行動 in 根室」を開催した。JR連合からは鎗光俊勝労働政策局長、相良夏樹組織局長、人見圭一JR北労組書記長など合計4人が参加した。

10日には、北方領土問題の経緯や現状、課題と展望について学び、元島民が故郷・北方四島に寄せる想いなどを聞く「北方四島学習会」が開催された。11日には、根室市の納沙布岬・望郷の岬公園において、「2022 平和ノサップ集会」が「北方領土（択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島）の返還！故郷への想いをつなごう！四島交流を進めよう！」のローガンにて、500名を超える仲間の参加のもと開催された。



平和ノサップ集会では冒頭、主催者を代表して連合の芳野友子会長が挨拶に立ち、「平和で安心な社会は、私たちが暮らし働く上で絶対に欠かせない。今も昔も、そしてこれから先も、平和は、連合が労働運動に取り組む上で大きな柱となっている」と述べ、「北方四島の一括返還と日ロ平和条約の締結を通じて、北方領土問題を早期に解決し、真の意味での戦後を迎えよう」と参加者に呼び掛けた。

続いて来賓として、石垣雅敏根室市長や諸星衛北方領土問題対策協議会理事長の挨拶があり、石垣根室市長は自分の従兄が北方領土の不法占拠とシベリア抑留により還らぬ人となったエピソードを語り、10代前の安藤石典根室市長が北方領土返還運動を全国的な運動へと展開した想いを伝えた。

さらに、元択捉島民の鈴木咲子氏も演台に立ち、故郷を奪われた悲しさを語り、「日本政府にはロシアとの交渉を継続し、来年からはお墓参りができるようにお願いしたい。孫たちを北方四島に連れていき、北方領土問題について孫たちが関心を持てる機会を与えたい」と訴えた。

こうした訴えにJR連合の参加者一同は心を打たれ、返還運動にしっかりと取り組んでいく想いを強くした。また、好天の同日、肉眼で確認ができた「歯舞群島」の貝殻島や水晶島、「国後島」に対し、その想いを多くの仲間に繋いでいくことを誓った。

